

# 令和5年度病害虫発生予察特殊報第5号

令和5年10月20日  
千葉県農林総合研究センター長

## タテスジヒメジンガサハムシの発生について

1 害虫名：タテスジヒメジンガサハムシ

2 学名：*Cassida circumdata* Herbst

3 作物名：サツマイモ

4 発生確認の経緯及び国内での発生状況

(1) 令和5年9月29日に県北東部のサツマイモほ場で本種と疑われるハムシ科成虫及び幼虫が確認され、10月10日に千葉県農林総合研究センターによりタテスジヒメジンガサハムシと同定された(写真1、2)。

(2) 本種は南西諸島、中硫黄島、八丈島、大阪府、奈良県での発生が報告されており、島しょ部を除く関東地方での発生は初めてである。

(3) 本種は狭食性であり、サツマイモ、空心菜(ヨウサイ)、ハマヒルガオ等の葉の食害が報告されている。

(4) 本種は年に数回発生するとされているが、日本での世代数は不明である。中国南部では年に5～6世代発生すると考えられている。

5 特徴

(1) 形態

本種の成虫は体長4～5mm、背面は緑から薄緑色がかった透明で、中央部が金緑色地に黒色もしくは褐色のU字型の紋が入った“陣笠状”の殻で覆われている(写真1)。

終齢幼虫は体長6.5mmで脱皮殻を尾部末端の2本の長いトゲに付けていくのでトゲのある尾を持ったように見える(写真2)。

(2) 被害

本種は成虫・幼虫ともに寄主植物の葉を丸くかじり取る(写真3、幼虫による食害痕)。

食害は地上部のみであるため、収量への影響は小さいと考えられる。

6 防除対策

(1) 令和5年10月1日現在、本種に登録のある農薬は無いため、見つけ次第捕殺する。

(2) 未発生地域への拡大を防ぐため、苗を移動させる際は、本種が付着していないことを確認して、十分注意して行う。



写真1 成虫（体長4～5mm）



写真2 幼虫（体長6.5mm）

注) 脱皮殻を尾のように付けているのが、本種幼虫の特徴



写真3 幼虫によるサツマイモ葉の食害痕

注) 室内で健全葉を供試し、幼虫を飼育した

※写真は千葉県農林総合研究センター原図

- ・病害虫発生予察情報は、インターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

